

# 酒類・食品 & News 解説

週刊

令和7年11月14日(金曜日) 第3470号  
(昭和42年7月10日第3種郵便物認可)  
毎週金曜日 発行 編集発行人 石母田 健  
購読料 6ヵ月 15,730円(税込み)  
振替番号 東京4-71739  
発行所 株式会社日刊経済通信社  
本社/東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋川ビル  
☎03(5847)6611代 FAX 03(5847)6600  
名古屋支局☎052(253)6924 大阪支局☎06(6353)1791  
<http://www.nikkankeizai.co.jp/>

## 創業70周年記念特集号①

### 2020年代の酒類食品市場('20年~'25年)

#### 酒類

2020年から25年の酒類市場は、酒税の増減税のほか、それぞれの種類に使用する原料価格の高騰などに伴い、価格改定・値上げが行われ、全体では数量減・金額微増の傾向にある。ただコロナ禍を経て、人流回復とともに、外食市場が復調、インバウンド観光客や大阪・関西万博の盛況ほか、明るい話題も多かった。カテゴリーではビール、RTDが堅調。ウイスキーや清酒は流れが環境が厳しいが、輸出では明るい数字が並んでいる。

〈ビール類〉  
ビールがじわり販売量増やす

20年から25年にかけてのビール類市場は、26年10月に完結するビール類酒税一本化に向けた2度のビール減税(20年10月と23年10月)を経て、各社が注力するビールがじわりと販売量を増やしてきた。

ただその間、コロナ禍の影響で、業務用を中心に大きな打撃を受け、現在もコロナ前の19年水準には完全には戻っていないのが実態だ。



一方、エコノミー・カテゴリー(発泡酒・旧新ジャンル)は、2度にわたる旧新ジャンルの増税で割安感が薄れ、より安価なRTDとの併飲、消費の移行が進み、厳しさを増している。具体的な販売数量推移(国産大手4社の前年比)は、コロナ禍で飲食店需要に壊滅的打撃を受けた20年のビールが78%、21年99%、飲食店需要の回復が本格的となった22年114%、23年107%、24年105%で、25年1~9月は99%と、ややペースが落ちている。他方、エコノミーは20年102%、21年92%、22年94%、23年92%、24年90%、

25年1~9月92%と、一貫して減少している。また、3カテゴリー計は、同順で91%、95%、103%、99%、97%、96%と漸減状態にある。26年10月には3度目のビール減税と、エコノミーの増税により、酒税の一本化が完結するが、その後もビールとエコノミーの価格差はある程度残るため、今後は規格変更を含め、新しい価格体系構築への検討が進められていくことになる。

〈RTD〉  
20~25年で2ケタ伸長見込む

RTD市場は毎年堅調に成長している。21年までは14年連続伸長を達成。22年は21年から続く家飲み需要一巡による裏返しや、業務用回復に伴う家庭用飲用の減少、当時からけん引してきたレモンサワーの鈍化などにより微(2面に続く)

#### 主な内容

##### 2020年代の酒類食品市場

##### 酒類

ビール類 1面  
RTD 1面  
清酒 2面  
洋酒 2面  
焼酎甲類 2面  
ワイン 2面

##### 牛乳・乳製品

飲料牛乳 3面  
発酵乳 3面  
チーズ 3面  
アイスクリーム 3面

##### 冷凍食品

缶詰 5面  
油脂 7面  
植物油 7面  
加工油脂 7面

##### 缶詰

小麦粉・二次加工品 9面  
製パン 9面  
プレミックス 9面  
即席麺 9面  
パスタ 9面

ワイン・ニユース① 13面  
(サントリー)

歳暮ギフト特集② 15面  
(嗜好飲料)

サリン、未来のカクテル 17面  
「麒麟氷結motta」 18面  
「kinaiふじりんご」 19面  
「kinaiふじりんご」 19面

©原料商品情報 10面  
創業70周年「あいさつ」 3面

KIRIN'S BEER BREW

おいしいとだけ 搾ってます。

一番搾り

よろこびがつなぐ世界へ  
KIRIN

ストップ! 20歳未満飲酒・飲酒運転。お酒は楽しく適量で。妊娠中・授乳期の飲酒はやめましょう。のんだあとはいりサイクル。 キリンビール株式会社